

エネルギー

1. 評価対象企業（21 社）

【石油・鉱業部門】（6 社）

国際石油開発帝石、石油資源開発、昭和シェル石油、出光興産、J X T Gホールディングス、コスモエネルギーホールディングス

【電力・ガス部門】（15 社）

東京電力ホールディングス、中部電力、関西電力、中国電力、北陸電力、東北電力、四国電力、九州電力、北海道電力、沖縄電力、電源開発、東京瓦斯、大阪瓦斯、東邦瓦斯、静岡ガス

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）「石油・鉱業」専門部会と「電力・ガス」専門部会の統合により、本年度より「エネルギー業種」として評価を実施した。今回の評価項目は、昨年度の両部会の評価項目をベースにしつつ、新たな評価項目に組み直したため、昨年度との比較は行っていない。

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	32
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	28
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	13
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	4	17
計		18	100

（注）評価項目の内容および配点は 79 頁参照

（2） 評価実施アナリストは 21 名（17 社）である。（80 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（76～78 頁）参照）

- ① 本年度のエネルギー全体（以下「全体」）の総合評価平均点は、69.8 点、総合評価点の標準偏差は 4.3 点となった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、石油・鉱業部門（6 社）が 70.8 点、電力・ガス部門（15 社）が 69.5 点で、さらに業態を細分化し評価点の高い順で見ると、ガス 72.7 点、石油 72.6 点、電力 68.3 点、鉱業 67.2 点となった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 71%、説明会等が 71%、フェア・ディスクロージャーが 79%、コーポレート・ガバナンス関連が 62%、自主的信息開示が 67%となり、コーポレート・ガバナンス関連および自主的信息開示が他の分野に比べ若干低水準となった。

- ④ 評価項目について見ると、全 18 項目のうち、次の 2 項目は高い得点率（評価点／配点（以下省略））となり、特に (a) は 1 社を除き 90%以上の得点率となった。
- (a) 「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢について、情報開示における不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払い、かつ、投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、事故・災害、リスク情報等）の開示は迅速かつ十分に行われていますか」（平均得点率 90%）（得点率：95%2 社・90%18 社・85%1 社）
- (b) 「英文による情報提供は充実していますか」（平均得点率 83%）（得点率：90%3 社・85%7 社・80%9 社）
- ⑤ 一方、次の項目は平均得点率が 58%で低水準となった。
- ・ 「配当政策等の株主還元策や資本政策について、具体的かつ納得性の高い目標数値で示されていますか。または、目標数値がない場合でも、客観的かつ合理的に説明されていますか」（平均得点率 58%）（得点率：35%1 社・40%台 4 社・50%台 7 社〔合計 12 社のうち 7 社電力〕）
- ⑥ なお、本年度に新設した下記 2 項目については、次のとおりとなった。
- (c) 「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか」（平均得点率 74%）（得点率：60%台 3 社・70%台 17 社）
- (d) 「国内外の動向を踏まえ、統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいますか」（平均得点率 66%）（得点率：50%台 3 社・60%台 11 社）

(2) 全体の上位 5 企業の評価概要

第 1 位 東京瓦斯（ディスクロージャー優良企業〔初受賞（統合前より通算して 12 回目）〕、総合評価点 78.1 点）

- ① 同社は、コーポレート・ガバナンス関連（得点率（以下省略）78%）、自主的情報開示（76%）が第 1 位、説明会等が第 2 位（78%）、経営陣の IR 姿勢等が第 3 位（78%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 4 位（82%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、会社主催の説明会に社長が出席し、今後の経営方針や株主還元策等のディスカッションが有意義となっていることや、経営陣が積極的に市場と十分なコミュニケーションをとる意欲を持っていることが評価された。また、IR 部門に十分かつ正確な情報が集積され、IR 担当者ともディスカッションでき、あるいは、専門の担当者も参加させるなど、インタビュー等が容易であることも評価された。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第 2 位となった。
- ③ 説明会等においては、説明資料に収益および財務分析に必要な情報（販売量、主要費用項目）や、主要子会社別等の実績データの記載が相対的に多いことが評価された。また、定量情報として見通しの分析に必要な情報（販売量、主要費用項目）が、分かりやすく記載されていること、定性情報として政策動向および対応、事業戦略等が分かりやすく記載されていることも評価された。さらに、説明会において、経営陣の簡潔かつ充実した説明により、十分な質疑応答の時間が確保され、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるよう十分説明されていることも評価された。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、ホーム・ページで有用な情報（決算説明会・カンファレンス等の資料、質疑応答の状況等）が遅滞なく提供されていることが評価された。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「資本政策、株主還元策の開示」に関して、配当政策等の株主還元策や資本政策について、定量的目標数値が明確に示されていることで、第 2 位以下に大差をつけた。また、中期経営計画の目標とする経営指標等について、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が説明されていることも評価された。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「アニュアルレポート」などにおいて非財務情報の開示に積極的に取り組んでおり、「国内外の動向を踏まえ、統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が同得点第 1 位となった。また、開示された公開情報について E-mail 等を利

用して能動的かつ適切に周知していることも高く評価された。

- ⑦ なお、データの開示量が減少し、または、限定的となっている点の改善要望や、中計に関する説明の充実、資本効率・利益成長・株主還元の一元的な説明、海外事業戦略における、投資規律を含む、より具体的な説明を要望する声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 JXTGホールディングス（総合評価点 77.1 点）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第1位（80%）、コーポレート・ガバナンス関連が第2位（73%）、説明会等が第3位（77%）、自主的情報開示が第4位（72%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第6位（81%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、会社主催の説明会に社長が出席し、今後の経営方針や株主還元策等について有意義なディスカッションができることや、経営陣が積極的に市場と十分なコミュニケーションをとる意欲を持っていることが評価された。また、IR 部門に十分かつ正確な情報が集積され、充実したデータを基に IR 担当者と有用なディスカッションができることや、経営陣の動向を確認できることも評価された。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第2位となった。加えて、経営分析を行う上で、業界環境の変化等に左右されず、必要かつ重要な情報の開示について、過去データとの比較可能性が担保されていることも評価された。
- ③ 説明会等においては、説明資料に収益および財務分析に必要な情報（販売量、主要費用項目）や、主要子会社別等の実績データ等が投資家・アナリストの関心に即して十分に記載されていることが評価された。また、定量情報として見通しの分析に必要な情報（販売量、主要費用項目）が、分かりやすく記載されていること、定性情報として政策動向および対応、事業戦略等が分かりやすく記載されていることも評価された。さらに、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるよう十分説明されていることも評価された。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、ホーム・ページで有用な情報が遅滞なく提供されていることが評価された。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画で目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分説明されていることが高く評価された。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「事業所説明会」が開催され、その際の実説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていることが評価された。また、開示された公開情報について E-mail 等を利用して能動的かつ適切に周知していることも極めて高い評価となった。
- ⑦ なお、金属事業分野における開示内容の詳細・充実、財務体質改善と株主還元拡充のバランス、考え方についての説明を望む声のほか、今後、経営目標（フリーキャッシュフロー、ROE）や株主還元の予見性をさらに高めて欲しいとの意見があった。

第3位 コスモエネルギーホールディングス（総合評価点 75.7 点）

- ① 同社は、説明会等が第1位（78%）、経営陣の IR 姿勢等が第2位（79%）、コーポレート・ガバナンス関連が同得点第4位（67%）、自主的情報開示が同得点第5位（71%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第12位（78%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、会社主催の説明会に社長が出席し、今後の経営方針や株主還元策等について有意義なディスカッションができることや、マネジメントの市場とのコミュニケーションが積極的であることが評価された。また、IR 部門に十分かつ正確な情報が集積され、IR 担当者の積極的な働きかけが充実していることや、意見交換の内容が経営陣へフィードバックされている印象があることも評価された。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が第1位となった。加えて、経営分析を行う上で、業界環境の変化等に左右されず、必要かつ重要な情報の開示について、過去データとの比較可能性が担保されていることも評価された。
- ③ 説明会等においては、説明資料に収益および財務分析に必要な情報（販売量、主要費用項目）や、主要子会

社別等の実績データ等が投資家・アナリストの関心に即して十分に記載されていることが評価された。また、定量情報として見通しの分析に必要な情報（販売量、主要費用項目）が、分かりやすく記載されていること、定性情報として政策動向および対応、事業戦略等が分かりやすく記載されていることも評価された。さらに、説明会において、経営陣の簡潔かつ充実した説明により、十分な質疑応答の時間が確保され、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるよう十分説明されていることも評価された。

- ④ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、中期経営計画で目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分説明されていることが高く評価された。
- ⑤ **自主的情報開示**においては、統合報告書などにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでおり、「国内外の動向を踏まえ、統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が同得点第 4 位となった。また、事業を理解する上で重要と思われる決算以外の説明会または見学会が開催され、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていることも評価された。
- ⑥ なお、セグメント別純利益の開示、風力発電事業の事業展開に伴う詳細な開示を要望する声があった。

第 4 位 関西電力（総合評価点 74.9 点）

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 2 位（83%）、**自主的情報開示**が第 3 位（73%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 4 位（78%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が同得点第 4 位（67%）、**説明会等**が第 7 位（74%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、会社主催の説明会に社長が出席し、今後の経営方針や株主還元策等について明確に考え・メッセージを発信していることや、経営陣が積極的に市場と十分なコミュニケーションをとる意欲を持っていることが評価された。また、**IR 担当者**と企画部門担当者同席の上、制度面の議論ができる機会を設けていることも評価された。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」も同得点第 2 位となった。
- ③ **説明会等**においては、経営陣の簡潔かつ充実した説明により、十分な質疑応答の時間が確保され、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるよう十分説明されていることが評価された。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、ホーム・ページで有用な情報（決算説明会・カンファレンス等の資料、質疑応答の状況等）が遅滞なく提供されていることが評価された。
- ⑤ **自主的情報開示**においては、「CSR レポート」、環境関連情報、統合報告書、経営計画や原子力事業の説明資料が充実しており、「国内外の動向を踏まえ、統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が同得点第 4 位となった。また、国内外の同業他社との比較が可能な定量的な情報が開示されていることのほか、開示された公開情報について E-mail 等を利用して能動的かつ適切に周知していることも評価された。
- ⑥ なお、中・長期経営計画における資本効率や株主還元のより具体的な目標設定、月次販売量のタイムリーな開示、短信での単体決算の開示再開を望む声があった。

第 5 位 東邦瓦斯（総合評価点 72.3 点）

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が第 1 位（85%）、**説明会等**が第 5 位（75%）、**経営陣の IR 姿勢等**（73%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（65%）が同得点第 7 位、**自主的情報開示**が第 16 位（64%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、**IR 部門**に十分かつ正確な情報が集積され、**IR 担当者**と有益なディスカッションができることが評価された。また、経営分析を行う上で、業界環境の変化等に左右されず、必要かつ重要な情報の開示について、過去データとの比較可能性が担保されていることも評価された。
- ③ **説明会等**においては、説明資料に収益および財務分析に必要な情報（販売量、主要費用項目）の実績データ等が投資家・アナリストの関心に即して十分に記載されていることが評価された。また、定量情報として見通しの分析に必要な情報（販売量、主要費用項目）が、分かりやすく記載されていること、定性情報として政策動向および対応、事業戦略等が分かりやすく記載されていることも評価された。さらに、説明会において、経営陣の簡潔かつ充実した説明により、十分な質疑応答の時間が確保されていることも評価された。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、ホーム・ページで有用な情報（月次実績、決算説明会・カンファレンス等の資料、質疑応答の状況等）が遅滞なく提供されていることが評価された。

- ⑤ 自主的情報開示においては、開示された公開情報について E-mail 等を利用して能動的かつ適切に周知していることが評価された。
- ⑥ なお、新中期経営計画における目標とする経営指標の明確化とそれに伴う株主還元方針の明示を望む声があった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ 中部電力（総合評価点 71.4 点、同得点第 6 位）

同社は、IR 部門に十分かつ正確な情報が集積され、IR 担当者と有益なディスカッションできることのほか、同部門以外へのインタビュー等が容易であることや、経営分析を行う上で、業界環境の変化等に左右されず、必要かつ重要な情報の開示について、過去データとの比較可能性が担保されていることなども評価され、**経営陣の IR 姿勢等**において第 5 位（75%）となった。

○ 電源開発（総合評価点 71.4 点、同得点第 6 位）

同社は、会社主催の説明会に社長が出席し、今後の経営方針や株主還元策等について有意義なディスカッションができることや、経営陣が積極的に市場と十分なコミュニケーションをとる意欲を持っていることも評価され、**経営陣の IR 姿勢等**において第 6 位（74%）となった。なお、中期経営計画における定量目標設定や株主還元方針の明確化を評価する声もあった。

(参考) 部門別の第 1 位企業

【石油・鉱業部門】

J X T Gホールディングス（総合評価点 77.1 点、全体第 2 位）

【電力・ガス部門】

東京瓦斯（総合評価点 78.1 点、全体第 1 位）

以 上

2018年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (エネルギー:全体)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
			評価項目4 (配点 32点)		評価項目4 (配点 28点)		評価項目3 (配点 10点)		評価項目3 (配点 13点)		評価項目4 (配点 17点)	
1	9531 東京瓦斯	78.1	25.0	3	21.8	2	8.2	4	10.2	1	12.9	1
2	5020 JXTGホールディングス	77.1	25.7	1	21.5	3	8.1	6	9.5	2	12.3	4
3	5021 コスモエネルギーホールディングス	75.7	25.2	2	21.9	1	7.8	12	8.7	4	12.1	5
4	9503 関西電力	74.9	24.9	4	20.6	7	8.3	2	8.7	4	12.4	3
5	9533 東邦瓦斯	72.3	23.5	7	21.1	5	8.5	1	8.4	7	10.8	16
6	9502 中部電力	71.4	24.0	5	21.0	6	7.5	18	7.4	15	11.5	11
6	9513 電源開発	71.4	23.7	6	20.5	8	7.5	18	8.3	9	11.4	12
8	9532 大阪瓦斯	70.5	21.0	18	21.2	4	7.8	12	8.0	12	12.5	2
9	9507 四国電力	69.8	23.3	9	19.1	16	8.0	10	7.8	13	11.6	9
9	9543 静岡ガス	69.8	23.5	7	19.7	13	8.3	2	8.4	7	9.9	21
11	9511 沖縄電力	69.5	22.4	10	20.4	9	7.3	20	9.1	3	10.3	17
12	9501 東京電力ホールディングス	69.3	22.4	10	20.2	10	7.6	17	7.3	17	11.8	8
13	5002 昭和シェル石油	68.7	22.2	12	18.6	18	8.1	6	8.2	10	11.6	9
13	5019 出光興産	68.7	22.2	12	19.9	12	7.8	12	8.7	4	10.1	18
15	9504 中国電力	68.2	22.0	14	19.2	14	8.1	6	7.8	13	11.1	14
16	1605 国際石油開発帝石	67.4	21.1	17	17.9	20	8.1	6	8.2	10	12.1	5
17	1662 石油資源開発	67.0	22.0	14	20.0	11	7.9	11	7.1	18	10.0	20
18	9506 東北電力	66.8	20.7	19	19.2	14	8.2	4	7.4	15	11.3	13
19	9508 九州電力	66.7	21.5	16	18.9	17	7.3	20	7.0	19	12.0	7
20	9509 北海道電力	62.4	19.4	21	18.1	19	7.8	12	6.2	21	10.9	15
21	9505 北陸電力	60.9	19.7	20	17.0	21	7.8	12	6.3	20	10.1	18
	評価対象企業評価平均点	69.83	22.64		19.89		7.90		8.03		11.37	

(注1) 総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。
(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、4.3点であった。

2018年度 ディスクロージャー評価比較総括表（石油・鉱業部門）

（単位：点）

順位	評価項目 総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示						
		評価項目4 (配点 32点)	評価項目4 (配点 28点)	評価項目3 (配点 10点)	評価項目3 (配点 13点)	評価項目4 (配点 17点)						
	評価対象企業	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位					
1	5020 JXTGホールディングス	77.1	25.7	1	21.5	2	8.1	1	9.5	1	12.3	1
2	5021 コスモエネルギーホールディングス	75.7	25.2	2	21.9	1	7.8	5	8.7	2	12.1	2
3	5002 昭和シェル石油	68.7	22.2	3	18.6	5	8.1	1	8.2	4	11.6	4
3	5019 出光興産	68.7	22.2	3	19.9	4	7.8	5	8.7	2	10.1	5
5	1605 国際石油開発帝石	67.4	21.1	6	17.9	6	8.1	1	8.2	4	12.1	2
6	1662 石油資源開発	67.0	22.0	5	20.0	3	7.9	4	7.1	6	10.0	6
	評価対象企業評価平均点	70.76	23.06		19.97		7.96		8.40		11.37	

（注1）総合評価点と同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。

（注2）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、4.4点であった。

2018年度 ディスクロージャリー評価比較総括表（電力・ガス部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
			評価項目4 (配点 32点)		評価項目4 (配点 28点)		評価項目3 (配点 10点)		評価項目3 (配点 13点)		評価項目4 (配点 17点)	
1	9531 東京瓦斯	78.1	25.0	1	21.8	1	8.2	4	10.2	1	12.9	1
2	9503 関西電力	74.9	24.9	2	20.6	5	8.3	2	8.7	3	12.4	3
3	9533 東邦瓦斯	72.3	23.5	5	21.1	3	8.5	1	8.4	4	10.8	12
4	9502 中部電力	71.4	24.0	3	21.0	4	7.5	12	7.4	10	11.5	7
4	9513 電源開発	71.4	23.7	4	20.5	6	7.5	12	8.3	6	11.4	8
6	9532 大阪瓦斯	70.5	21.0	12	21.2	2	7.8	8	8.0	7	12.5	2
7	9507 四国電力	69.8	23.3	7	19.1	12	8.0	7	7.8	8	11.6	6
7	9543 静岡ガス	69.8	23.5	5	19.7	9	8.3	2	8.4	4	9.9	15
9	9511 沖縄電力	69.5	22.4	8	20.4	7	7.3	14	9.1	2	10.3	13
10	9501 東京電力ホールディングス	69.3	22.4	8	20.2	8	7.6	11	7.3	12	11.8	5
11	9504 中国電力	68.2	22.0	10	19.2	10	8.1	6	7.8	8	11.1	10
12	9506 東北電力	66.8	20.7	13	19.2	10	8.2	4	7.4	10	11.3	9
13	9508 九州電力	66.7	21.5	11	18.9	13	7.3	14	7.0	13	12.0	4
14	9509 北海道電力	62.4	19.4	15	18.1	14	7.8	8	6.2	15	10.9	11
15	9505 北陸電力	60.9	19.7	14	17.0	15	7.8	8	6.3	14	10.1	14
	評価対象企業評価平均点	69.45	22.47		19.86		7.87		7.88		11.37	

(注1) 総合評価点と同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。

(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、4.3点であった。

2018年度 評価項目および配点（エネルギー）

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス		配点
		(32点)
(1) 経営陣のIR姿勢		
会社主催の説明会（スモールミーティングを除き、電話会議を含む）に社長または会長が年2回以上出席し、今後の経営方針や株主還元策等について有意義なディスカッションができますか。経営陣が積極的に市場と十分なコミュニケーションをとる意欲を持っていますか。		14
(2) IR部門の機能		
IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、IR担当者等と有益なディスカッションができますか。あるいはIR部門以外へのインタビュー等は容易ですか。		8
(3) IRの基本スタンス		
① フェア・ディスクロージャー・ルール導入の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。		6
② 経営分析を行う上で、業界環境の変化等に左右されず、必要かつ重要な情報（会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業を含む）の開示について、過去データとの比較可能性が担保されていますか。		4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示		配点
		(28点)
(1) 説明資料等における開示		
① 決算短信および決算説明資料等		
決算発表と同日にホーム・ページで決算の理解に有益な資料を開示していますか。収益および財務分析に必要な情報（製品別生産・販売量、主要諸元、主要費用項目、設備投資、部門別あるいは主要子会社別等の実績データ等）は、投資家の関心に即して十分に記載されていますか。主要諸元の感応度、主要費用など関心度の高い数値が資料に適切に記載されていますか。		8
② 説明資料における見通しの開示		
定量情報として、製品別生産・販売量、主要諸元、主要費用項目、設備投資計画、部門別あるいは主要子会社別等の収益見通し等および定性情報として、政策動向および対応、事業戦略等が、分かりやすくかつ十分に記載されていますか。		10
(2) 説明会、インタビューにおける開示		
① 短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。		3
② 説明会において、経営陣により簡潔かつ充実した説明が行われ、十分な質疑応答の時間を確保していますか。		7
3. フェア・ディスクロージャー		配点
		(10点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢		
フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢について、情報開示における不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払い、かつ、投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、事故・災害、リスク情報等）の開示は迅速かつ十分に行われていますか。		2
(2) ホーム・ページにおける情報提供		
ホーム・ページで有用な情報提供（月次実績、決算説明会・カンファレンス等の資料、質疑応答の状況等）が遅滞なく行われていますか。		6
(3) 英文による情報提供		
英文による情報提供は充実していますか。		2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示		配点
		(13点)
(1) コーポレートガバナンス・コード		
コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。		3
(2) 資本政策、株主還元策の開示		
配当政策等の株主還元策や資本政策について、具体的かつ納得性の高い目標数値で示されていますか。または、目標数値がない場合でも、客観的かつ合理的に説明されていますか。		6
(3) 目標とする経営指標等		
中・長期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、説明会資料等において十分説明されていますか。		4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示		配点
		(17点)
① 国内外の動向を踏まえ、統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報（ESG情報等）の開示に積極的に取り組んでいますか。		7
② 国内外の同業他社との比較が可能な定量的な情報の開示がなされていますか。		4
③ 事業を理解する上で重要と思われる決算以外の説明会または見学会が開催され、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか。		4
④ 開示された公開情報について、E-mail等を利用して能動的かつ適切に周知していますか。		2

エネルギー専門部会委員

部 会 長	新家 法昌	みずほ証券
部会長代理	荻野 零児	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	大畠 彰雄	野村アセットマネジメント
	西川 周作	大和証券
	松本 繁季	野村證券
	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
	山崎 慎一	岡三証券

評価実施アナリスト（21 名）

石井 宏	三菱 UFJ 国際投信	新家 法昌	みずほ証券
井上 崇	三井住友信託銀行	相馬 正欣	三井住友信託銀行
大畠 彰雄	野村アセットマネジメント	角田 成宏	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
荻野 零児	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	坪井 暁	ニッセイ アセット マネジメント
狩野 泰宏	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント	富田 展昭	極東証券経済研究所
梶島 裕介	大和証券投資信託委託	西川 周作	大和証券
黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント	松本 繁季	野村證券
権藤 貴志	農林中金全共連アセットマネジメント	宮田 幸弘	三菱 UFJ 信託銀行
坂口 真人	三菱 UFJ 信託銀行	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
佐久間 聡	QUICK	山崎 慎一	岡三証券
塩田 英俊	サークルクロスコーポレーション		

（注）上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。